

海況予測モデルの開発－水産機関定線データの利用 で黒潮予測の精度向上－

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010206

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 4.0 International License.



海況予測モデルの開発 －水産機関定線データの利用で黒潮予測の精度向上－

中央水産研究所 海洋生産部 海洋動態研究室

共同研究機関：北海道区水産研究所，東北区水産研究所，遠洋水産研究所

協力機関：独海洋研究開発機構，東北・中央ブロック水産試験研究機関

研究の背景・目的

1. 現行の海況予測モデルの精度劣化は，初期値作成に利用可能な現場観測値が少ないことに一因があります。
2. 漁海況予報では，現行の経験的な予測手法に対して数値モデルを利用した予測手法の一元化が求められています。
3. 現行の海況予測モデルについて，初期値作成に水産試験研究機関の定線観測値（右図）を利用して精度向上を図り，漁場形成に係わる水塊配置の2ヶ月先までの予測を可能とします。

研究成果

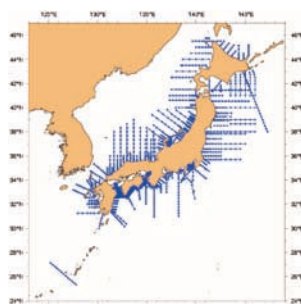
1. JCOPE海洋変動予測システム（海洋研究開発機構）を基盤として，初期値作成に係わるデータ同化

スキームを改編して水研版海況予測モデルの暫定版を構築しました。

2. 東北・中央ブロックの水産試験研究機関の定線観測値を初期値作成に利用し，スキームの改編を行った結果，現行に比べて再現性が格段に向上し，2004年の黒潮流路を2ヶ月先までほぼ正確に再現することに成功しました（下図，モデル海面高度）。

波及効果

1. 水産試験研究機関の定線観測値の有効活用に繋がり，モデルとモニタリングが密接にリンクした水産海洋研究の新展開が期待されます。
2. 最終調整を経て19年度から実運用開始予定の漁海況予報の高精度化が見込まれます。



水産試験研究機関の定線網
（現状では，ほとんどがリアルタイムで流通していない）

